

新潟セントラルフィルハーモニー管弦楽団 with

鍵富弦太郎

GENTARO KAGITOMI

plays PYOTR TCHAIKOVSKY
チャイコフスキ

新潟セントラルフィルハーモニー管弦楽団第7回演奏会

Niigata Central Philharmonic Orchestra 7th Concert

PROGRAM

ロッシーニ

「アルジェのイタリア女」序曲

ベートーヴェン

交響曲第8番

—休憩—

チャイコフスキ

ヴァイオリン協奏曲

ヴァイオリン独奏

鍵富弦太郎

指揮

磯部省吾

管弦楽

新潟セントラルフィルハーモニー管弦楽団

2021.

3.14. Sun.

14:30 開演 (14:00 開場)

新潟市秋葉区文化会館ホール

〒956-0033 新潟市秋葉区新栄町4番23号

チケット(全席自由) 前売:3,000円

当日:3,500円

※チケット発売開始日:2020年11月27日(金)

主催 新潟セントラルフィルハーモニー管弦楽団

共催 新潟市秋葉区文化会館

助成 内田エネルギー科学振興財団 丸山育英会

協力 鍵富弦太郎後援会

後援 新潟市 新潟日報社

プレイガイド 新潟市秋葉区文化会館(0250-25-3301)

りゅーとぴあインフォメーション(025-224-5622)

ヤマハミュージッククリテイリング新潟店(025-243-4311)

コンセルト(025-225-0300)

【新型コロナウイルス感染症対策について】

○発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合はご来場をお控えください。

○マスクの着用をお願いいたします。

○手洗い・アルコール消毒など、各自対策をとった上でご来場をお願いいたします。

楽団発足 10年目を迎えて

2011年に発足した私ども新潟セントラルフィルハーモニー管弦楽団にとって 2020年は10年目の節目の年でした。発足のきっかけはバレエ公演、数年を経た2014年から始めた定期演奏会は今回で7回目を数えます。そんな私たちの節目の年は、言わずもがな新型ウイルスの年となってしまいました。感染拡大がやや落ちてきました今、各地でクラシックコンサートも再始動し始めており、私どもの公演も何とか開催できる運びとなって少し安堵しているところです。10年目とはいえまだ道半ば、これからも新潟の芸術文化発展に少しでも寄与していきたいと考えています。

さて、私どものコンサートで取り上げ続けてきている二つのシリーズ「ベートーヴェン・シリーズ」と「新潟のアーティストたち」。まずベートーヴェン・シリーズでは交響曲第8番を取り上げます。この交響曲第8番は、いわゆる“名前付き”的第3番(英雄)・第5番(運命)・第6番(田園)や「ベト7」「第九」と略される第7番・第9番に比べると、いささか目立たない印象の楽曲かもしれません。本楽団でも演奏会でこれまで取り上げてきたのは第3番・第6番・第7番と有名曲揃いでしたので、今回の第8番が“いまひとつ名前の通っていない交響曲”の初となります。名前が通っていないからといってこの第8番は決して出来が悪いわけではなく、むしろ完成度においては随一の交響曲です。一切の無駄を削ぎ落し熟成された楽曲として、ベートーヴェン全作品のなかでも際立った存在ともいえるのです。短い演奏時間の中に凝縮されたベートーヴェンのエッセンスのようなものを、ぜひとも感じ取ってください。

なお 2020年はベートーヴェン生誕250年ということで多くのベートーヴェン・イヤー演奏会が企画されていましたが、そのほとんどは新型ウイルスのために中止となってしまいました。本来ならば多くのベートーヴェン作品に触れられるはずの機会が失われてしまつたと、残念に思われている方も多いことと思います。記念の年は明けてしまいますが、このコンサートで2020年に聴けなかったベートーヴェンを少しでも取り戻してみてはいかがでしょうか。

そして「新潟のアーティストたち」。今回ソリストに迎えるのは、全国的な活躍もめざましい気鋭のヴァイオリニスト・鍵富弦太郎氏です。新潟での演奏の機会も多い鍵富氏ですが、氏の協奏曲のソロを新潟で聴ける機会としては貴重なコンサートになること必至です。そんな鍵富氏のソロにより奏でられるのはチャイコフスキーの協奏曲、この作品は三大ヴァイオリン協奏曲にも数えられる名曲中の名曲です。鍵富氏にとってもこの曲を新潟で披露するのは今回が初めて、そういう点でも注目に値するのではないかでしょうか。時に荘厳に時に優美に、愁いを帯びた旋律が流れ、甘味な囁きが聞こえ、才気が迸る…。曲の随所に誰もが聴いたことのあるメロディが散りばめられ、聴く者を決して飽きさせません。

この大曲チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲をコンサートのメインプログラムに置き、ロッシーニとベートーヴェンの作品を前に据える、ややイレギュラーな演奏曲順によりお送りします第7回演奏会、早春の日の華やかなひとときになりました幸いです。



BIOGRAPHY BIOGRAPHY BIOGRAPHY BIOGRAPHY BIOGRAPHY BIOGRAPHY BIOGRAPHY

鍵富弦太郎（ヴァイオリン） Gentaro Kagitomi - Violin



1986年新潟市生まれ。

12歳で新潟市民芸術文化会館開館記念ガラコンサートのソリストとしてデビュー。秋山和慶指揮、東京交響楽団と共に。

桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）を首席で卒業し、桐朋学園大学ソリストディプロマコースに進学。

高校在学中にピクターエンタテインメントより CD「ヴィヴァーチェ」「歌いだした鳥」をリリース。幼少より様々なコンクールを制覇し、第72回日本音楽コンクール第1位、レウカディア賞、鶯見賞、黒柳賞受賞。調布市芸術厚勞賞受賞。これまでに奥村和雄氏、辰巳明子氏に師事。

桐朋学園50周年記念コンサートにて小澤征爾氏の指名で、桐朋OB オーケストラとソリストとして共演。新日本フィルハーモニー、アンサンブル金沢他、ドミトリー・キタエンコ氏、岩城宏之氏、飯森泰次郎氏、高関健氏らと共に。公益財団法人日本青少年文化センターの青少年劇場にて、全国各地の学校で演奏会を開催。またレスパス弦楽四重奏団の1stヴァイオリンとしても活動。サンクトペテルブルグ音楽祭（ロシア）からの招聘や、国際交流基金よりカナダ5都市に派遣される。現在、室内楽やオーケストラのゲストコンサートマスターなど国内外で活躍している。

2019年日本アコースティックレコードより最新CDをリリース。

新潟セントラルフィルハーモニー管弦楽団 Niigata Central Philharmonic Orchestra

新潟県で唯一の、地元プロ奏者を中心とするオーケストラ。地元の実力ある奏者を集結することによって高いレベルの演奏を提供し、県内の芸術文化振興に寄与することを目標に2011年より活動している。

そのような楽団の成り立ちもさることながら、自主公演でのさまざまな取り組みも大きな注目を集めている。日本を代表するヴァイオリニスト・大谷康子氏をソリストに迎えたヴィヴァルディ「四季」全曲演奏会や、新潟出身の音楽家を協奏曲のソリストに取り上げる「新潟のアーティストたち」と題したシリーズなど、これまで県内ではおよそ行われることのなかった数々の取り組みが好評を博している。

自主公演の他にも、依頼公演や他団体とのコラボレーションなどといった地域社会からのさまざまな求めにも応じており、活動の幅を広げている。